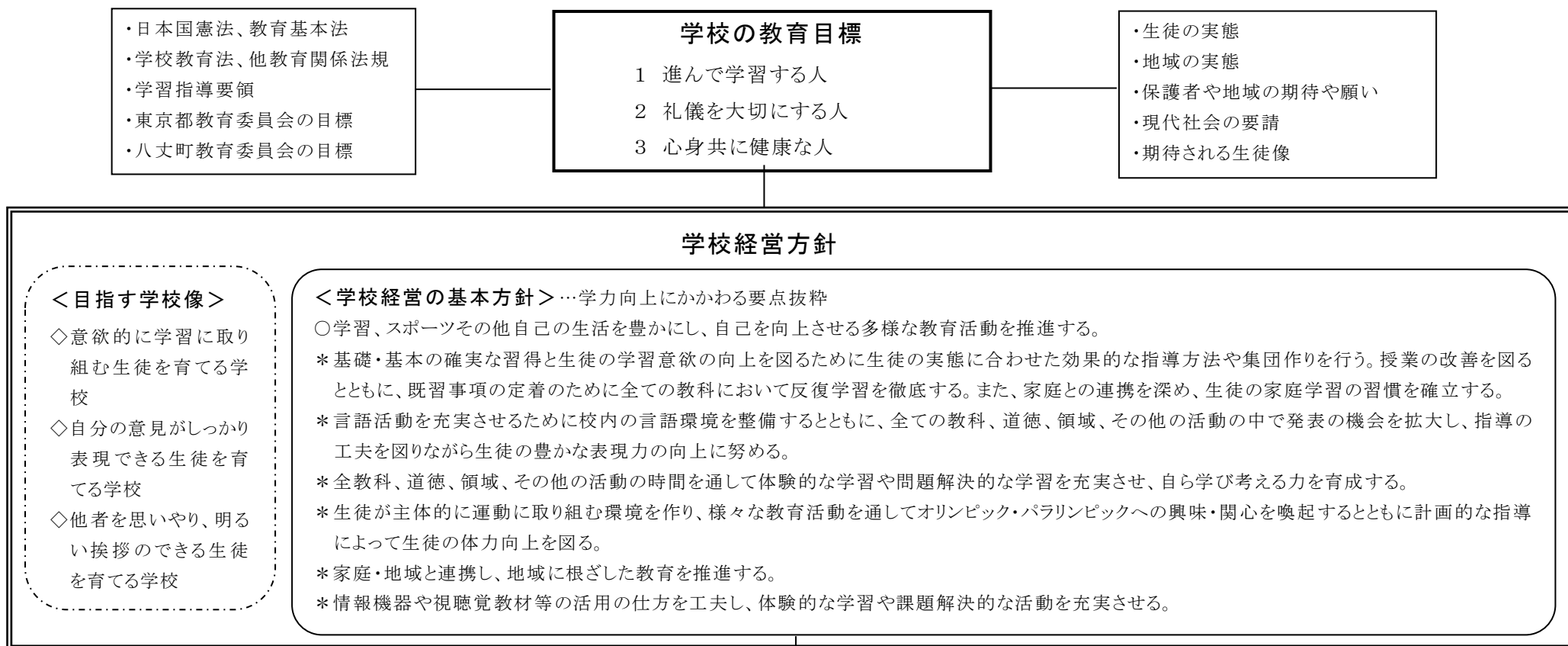


学力向上を図るための全体計画



**各教科の指導の重点**

基礎的・基本的な知識、理解、技能、体力の向上を図るために、

- 1 学習に対する興味や関心を高められるよう、各教科で可能な限り体験的な活動を取り入れたり、情報機器の活用を推進したりするとともに、習熟の程度に応じたグループ指導、個別指導等、指導形態を工夫する。
  - ①各教科・領域の関連する単元において、合科的な指導を取り入れる。
  - ②国際理解教育の促進及び、英会話能力を育成するために英語科でALTを活用した授業を行う。
  - ③数学は全学年で個々の習熟の程度に応じた指導を実施する。
- 2 主体的に学ぶ意欲や態度を育成するとともに、感動と達成感を体験できるように授業改善を図る。

**オリンピック・パラリンピック教育**

オリンピック憲章に基づき、健全な身体と精神を育成するとともに、さまざまな人や国の歴史及び文化を尊重できるよう、すべての教育活動で取り組む。

**伝統・文化推進教育**

専門的かつ継続的な活動を実施し、「日本の伝統・文化の良さを理解し、様々な国や地域の方に日本の良さを発信できる生徒」、「互いの文化を尊重した交流ができる生徒」の育成を図る。JET青年の活用

**体力向上（SAS）**

指導法の工夫や運動部活動加入の推進やバランスのとれた体力向上の取組等を推進する。  
運動が苦手・好きでない生徒や部活動に所属していない生徒等を対象とした体育活動に取り組む。

**本校が目指す「確かな学力」**

本校では、まず基本的な生活習慣及び学習習慣の確立を基盤としながら、基礎基本（基礎学力）の定着に力を注いでいく。そして、この基礎学力を基に、課題を見つけ、解決する力（応用力）の充実を図っていく。

最終的には、これからの変化の激しい時代にあっても翻弄されることなく、柔軟に思考しながら適切に判断を下し、行動を起こすことができるような力、即ち「生きる力」をどの生徒にも身につけさせていくことを目指していく。

さらに今年度は発表の場で自分の考えや思いを十分に表現することのできる力の育成に重点を置く。

**言語活動**

**基礎学力**

- ①意欲的に課題に取り組むことができる。
- ②教科書レベルの文章をスラスラと読むことができる。
- ③意味の通じる文章を書くことができる。
- ④意思が伝わるように話すことができる。
- ⑤話の内容を的確につかみながら聞くことができる。
- ⑥基本的な計算をすることができる。
- ⑦教科書に記載されている基本的な知識が身についている。
- ⑧積極的にコミュニケーションを図ることができる。
- ⑨豊かな感性をもっている。
- ⑩基礎体力が身についている。
- ⑪調べたり、情報を選択したりするなど、学び方が身についている。

**応用力**

- ⑫課題を見出すことができる。（課題発見能力）
- ⑬物事の処理を迅速かつ的確に行うことができる。（処理力）
- ⑭知識や経験を基に考え、まとめることができる。（思考力）
- ⑮的確に判断し、行動することができる。（判断力）
- ⑯説得力のある豊かな表現をすることができる。（表現力）
- ⑰新しいものを創造することができる。（創造力）
- ⑱環境に適応して行動することができる。（適応力）

**生きる力**

課題を見つけ解決する力（応用）

全教科にわたる基礎基本の力（基礎学力）

基本的な生活習慣及び基本的な学習習慣（基盤）

**道徳の指導の重点（抜粋）**

生徒一人一人が、自他の生命を尊重し、思いやりの心を育み、人間としての生き方、社会生活に欠かせない協調性、積極的に行動する意欲・粘り強さ・正義感を育てる。

**特別活動の指導の重点（抜粋）**

集団活動を通して集団の一員としての自覚を深め、自主的・実践的に生徒自らが活動する態度を育成する。

**総合的な学習の時間の指導の重点**

生徒の「生きる力」の育成を目指す。

- 1 体験的な学習や課題解決的な学習を取り入れ、主体的に学ぶ力を育成するとともに、環境についての意識を向上させる教育を推進する。
- 2 学習発表会など発表の場を設定し、的確な表現で発表できる能力を育成する。

**生活指導の重点（抜粋）**

豊かな学校生活を送らせるために、基本的な生活習慣を定着させ、社会生活における基本的ルールを身につけさせるとともに、生徒の自治能力の向上、教育相談の充実を図る。

**進路指導の重点（抜粋）**

生徒の発達段階に応じて自己の能力や適性を把握させ、主体的に進路を選択・決定する能力や態度を育成し、生徒の豊かな自己実現を図る。

**小中一貫教育カリキュラム**

大賀郷小学校と連携し小中一貫教育カリキュラムを作成し、効果的な指導の在り方を研究する。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>*単元の目標・各時間の目標を明確にする。</li> <li>*五感に訴える学習、体験的な学習を積極的に取り入れる。</li> <li>*習熟の程度に応じたグループ指導、個別指導等、多様な指導形態を取り入れる。</li> <li>*国や都の学力調査や町教研の共通テスト等の分析、生徒の実態に基づき授業改善プランを学期ごとに作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*週あたり29時間授業を実施し、授業時数を確保しながらゆとりをもって、授業を進められるようにする。</li> <li>*定期考査前の1週間を目安に、6校時後の25分間を7校時として計画的に配置し、授業時数を確保する。</li> <li>*体力向上週間や複数回の体力テストを配置し、年間にわたって学校全体が体力向上の取り組みを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*特別支援教育の充実に向けて特別支援教育コーディネーターを中心として組織的な活動や研修の充実を図る。</li> <li>*研究授業を通して各自が主体的に自教科の授業の改善を図る。</li> <li>*実践的な小中一貫教育カリキュラムの見直しを取り組み、小学校と指導内容・方法の共有を図る。</li> <li>*表現力向上を小学校と共通の研究テーマとして、研究活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*指導計画と評価計画の一体化を図り、評価のフィードバックに力を入れていく。</li> <li>*より明確な評価規準・評価基準・評価から評定への総括方法の確立に向け、見直しを行っていく。</li> <li>*評価の精度をさらに高める工夫を進める。</li> <li>*生徒による授業アンケートを毎学期実施し、指導方法や授業進度の工夫等に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*学校だより・ホームページ・ブログを通し、学校の情報を定期的に提供していく。</li> <li>*学校公開を定期的に行い、外部の意見の吸収に努めていく。</li> <li>*保護者会・面談等を充実させ、連携を強めていく。</li> <li>*伝統・文化に関する教育活動については地域の人材を活用して指導するとともに、保護者の参観や参加を促す。</li> <li>*専門家等による出前授業により、本物に触れる機会を設定する。</li> </ul>